

令和 6 年度 県立笠間高等学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度重点目標の達成状況についての自己評価は妥当か	☒ A 妥当である ☐ B おおむね妥当である ☐ C あまり妥当でない ☐ D 妥当でない	・生徒が主体的に学習等に取り組めるようになったことは、グループワークや学校の指導の成果と思われる。今後はより学校外との連携が重要になってくる。 ・アクティブラーニング等生徒が主役になる教育実践の推進については評価できる。 ・ICT の活用はさらなる充実が必要である。 ・現実的に地域社会との関係性を深めながらの達成状況は評価できる。
2. 学校の具体的目標及び具体的方策の達成状況についての自己評価は妥当か	☒ A 妥当である ☐ B おおむね妥当である ☐ C あまり妥当でない ☐ D 妥当でない	・教育実践の取り組みを学校外へ発信する試みは評価できる。
3. 学校は次年度への主な課題を把握しているか	☐ A 十分把握している ☒ B おおむね把握している ☐ C あまり把握していない ☐ D 把握していない	・図書の項目の評価が低く改善を期待したい。 ・ICT の活用については、生徒たちと活用法を共同で考えてはどうか。 ・探究学習を核にして生徒の生きる力を向上させる学びのありかたを考えてほしい。
4. 学校の改善方策への対応は適切か	☒ A 適切である ☐ B おおむね適切である ☐ C あまり適切でない ☐ D 適切でない	・普通科の魅力を向上させる手立てを考えてほしい。
5. その他（各学校の状況に応じて設定） これからの笠間高校は、どのような方向に進んでいくのが望ましいか、ご記入ください。		・多様性の尊重。学ぶ側も指導する側も自らを大事にできる場であってほしい。 ・知識や情報の量よりも、それらを活用し生徒の生きる力の育成が可能となる教育実践が求められる。 ・専門学科を持つ学校として他の学校との差別化

※ 「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。